

日高市公共施設等の在り方の検討に関する市民ワークショップ 報告書

公共施設の影響

- 老朽化が進行していて、古い、暗い、使いづらい
- いかにも役所的な運営
- 施設（機能）が個別に配置され中途半端、アクセスが不十分で行きづらい
- 知らない公共施設があるなど、情報提供の充実が必要

公共施設の整備の方向性

- 入しやすい、使いやすい、利用しやすい施設へ
- 機能の複合化や拠点化
- 財政状況を踏まえた、統廃合や集約化、機能の転換
- 市民サービスの変化に対応した新たな機能の導入の検討

統廃合（集約化）の進め方

- 集約、有効活用、縦割りの排除等による施設利用の最適化
- 新たな公共施設としての再整備も検討
- 小・中学校は、「6地区制の維持（一貫校化）」、「3地域制への統合」、「小学校6地区中学校3地域」等様々な意見有

公共が担う機能と民間が担う機能

- 市が所有・運営すべきものの理由の明確化
- 公共施設削減前に、民間委託も含めた経営効率化
- 市民との情報共有

設置条例：日高市市民参加条例（平成20年条例第25号）第7条第5号の規定に基づき設置

構成員：①公募による市民14名

②市と連携協定を締結する大学及び団体から推薦された市民8名

活動期間：平成27年6月30日から平成27年11月30日まで

検討内容：公共施設等の現状や課題に関する共通理解を図るとともに、今後の公共施設等の在り方に関して、検討を行った。

回数	日時	テーマ
第1回	平成27年6月30日(火)	・趣旨説明 ・市の現状と課題
第2回	平成27年7月29日(水)	・日高市の公共施設に対する印象は？ ・日高市の公共施設で良い所、悪い所は何か？ ・良い所を伸ばし、悪い所を改善するにはどうしたら良いか？
第3回	平成27年8月26日(水)	・前回の結果及び他グループの意見を踏まえた日高市の公共施設に対する印象 ・今後の日高市における公共施設マネジメントの在り方とは
第4回	平成27年10月6日(火)	・今後の日高市における公共施設マネジメントの方向性について ①統廃合（集約化）の進め方について ②公共が担う機能と民間が担う機能について
第5回	平成27年11月11日(水)	・市民ワークショップ報告書（案）について ・市民との議論の深め方について

（各回とも19：00～21：00）

公共施設等の在り方に関する取りまとめ

視点1【市民との情報共有】

- 市民への分かりやすい情報提供に努め、市民との情報共有を活発化し、市民と一緒に検討を進める。
- 情報発信の多様化（SNSの活用）
- 市の実情を適確に市民に伝える
- 施設の削減に向けて議論する
- 市民ニーズの意向を踏まえる

視点2【現状の改善】

- 市民ニーズに的確に対応できるよう、公共施設の機能の転換や再編に柔軟に取り組む。
- 入しやすい、使いやすい公共施設への転換
- 既存施設の有効活用（効率的運用）
- 複合施設化し、拠点性を確保
- 管理運営面での転換

視点3【地域性の重視】

- 3地域6地区でのこれまでの整備を踏まえ、引き続き地域性を考慮する。
- 公民館、学校、保育所、学童保育室を近くに配置
- バス等の公共交通アクセスの確保
- コミュニティを壊さない

視点4【民間との連携】

- 市民サービスの向上を目指し、民間の活力を積極的に活用する。
- 民間の企画力を期待（施設利用の活発化、経営の効率化）
- 施設を市が担う必要があるか再点検（民営化の検討）

視点5【将来への対応】

- 限られた財源を有効に活用し、市民ニーズに的確に対応できるよう、将来を見据え、論理的・客観的な視点から公共施設の最適化（集約化・複合化等）に取り組む。
- 税金に見合い、削減目標に沿った施設運営
- 先行投資による複合施設整備と現在市に無い機能の検討

施設ごとの公共施設の在り方に関する主な意見のまとめ

①行政系施設【市役所・出張所】

- 出張所は、『利用者数は少ないものの、地域にとって利便性の高い施設』であるが、『耐震性に不安がある』ことや『老朽化が進んでいる』こと、『駅や商業施設などには無い』ことから、『他施設との統合』や『人件費を含めた費用等を勘案』しながら、今後の在り方を検討すべき施設である。

②学校教育系施設【小学校・中学校・学校給食センター・教育センター】

- 『地域のコミュニティの核』として、6地区それぞれに小学校と中学校があるものの、一部地区では児童・生徒数が減少しており『教育環境などに地域差が生じている』とともに、『施設も未活用な状況で有効活用が望まれる』施設である。
- 『地域性や人口規模等を踏まえながら、今後は小学校や中学校の統廃合を検討』していく状況になってきており、統廃合については、『小・中学校を統合して6地区制を維持する』、『小学校は6地区制を維持し、中学校を統合する』、『小学校、中学校とも3校ずつにする』など、様々な意見が出ている。
- 現段階においても、『空き教室は他の公共施設機能へ転換させ、公共施設総量の削減に努めていく』、『統合に伴う学校施設の空き地や空き校舎は、他の公共施設機能へ転換させ、公共施設全体の統廃合を進め、学校を拠点とした集約化を進めていく』、『学校はオープンなスペースとし、地域の目が入りやすくすることで防犯性を高めていく』などが考えられる。
- 給食センターについては、『施設の安全性や食の安全性を確保するために、速やかな建替えを実施すべき』であり、実施に際しては『建替・運営を民間に委ねて進めていくべき』、『運営は市が実施すべき』という両論が出ている。

③子育て支援施設【保育所・学童保育室・児童ふれあいセンター】

- 保育所や学童保育室は、『今後の日高市における人口流入を支える重要な施設』であり、『保育所の待機児童数の少なさ』や『学童保育室の6年生までの入所』は参加者からの評価が高い。しかしながら、『子育て世代の親同士が会う場所がなかなか無い』、『身近に公園が少ない』ことなどから、『民間と協力しながら、施設や機能の充実を図る』、『他市にあり本市には設置されていない児童館など、子育て支援のための新たな機能の導入』などを検討すべきである。また、『学童保育室の一部は利用人数に対して規模が小さい』ことへの対応や、『学童保育室は、小学校や中学校との併設を基本として設置』を検討すべきである。

④保健福祉施設【保健相談センター・総合福祉センター「高麗の郷」】

- 保健相談センターは、『子育て世代の親同士が会う場所』のため、『普段から乳幼児が集えるような工夫が必要でもっと活用すべき』である。
- 総合福祉センターは、『市内で唯一の福祉施設であることから、今後も適切に維持管理すべき』である。

⑤市民文化系施設【生涯学習センター（図書館）・公民館・高麗郷民俗資料館・高麗郷古民家「旧新井家住宅」】

- 公民館は、『耐震性に不安がある』、『老朽化が進んでいる』、『暗くて使用しづらい』、『駐車場が不足していて利用しづらい』などの状況となっている。公民館や生涯学習センターなどは、『適正な負担を利用者に求めるべき』、『夜間時間の利用を拡大すべき』、『申込みの簡素化など利用者の実情に合わせた運営に転換していくべき』であり、『地域の拠点を形成する核となる施設』であることから、『新たな在り方を検討すべき』である。
- 高麗郷民俗資料館は、『駐車場が無い』、『分かりづらい、入りづらい』、『老朽化が進んでいる』、『休館していることが多い』ことから、『巾着田と併せて利活用すべき』である。
- 高麗郷古民家「旧新井家住宅」は、『巾着田と併せてシティプロモーションとして活用すべき』である。

⑥スポーツ・レクリエーション施設【文化体育館「ひだかアリーナ」・市民プール・北平沢運動場・日高総合公園】

- スポーツ・レクリエーション施設は、『市内に点在しているため利用するのに不便』であり、現在整備中の（仮称）横手台グラウンドを含めて、『スポーツ・レクリエーション系施設全体で利用方法を調整し、無駄な施設は削減していくべき』である。
- 文化体育館「ひだかアリーナ」は、『施設内容や利用方法などが市民に周知されていない』ことから、『市民への情報発信が必要』である。また、指定管理者制度により運営が行われているが、『利用料が高い』、『運営スタッフが施設や器具を理解していない』との意見も出ている。
- 市民プールは、『近隣の小・中学校との連携によるプール総数の削減』、『流れるプールなど新たな整備などによる集客力アップを図り、市内外から誰もが遊びに来るような施設へ転換すべき』である。『新たな整備ができないのであれば、維持管理費面から廃止』、『優れた立地を活かした商業施設の誘致などを検討すべき』である。

⑦公営住宅【市営住宅】

- 『古くて汚いイメージ』であり、『今後の方向性を検討すべき』である。

⑧産業系施設【農村研修センター】

- 農村研修センターは、『利用率が低いことから、利用方法の在り方などの検討を進め、利用しやすい運営方法を検討すべき』であり、『もしできないのであれば、廃止や周辺施設への統合を検討』、『高萩南農村研修センターは隣接してJAの直売所があることなどから、JAとの連携なども検討』すべきである。

⑨その他【公園トイレ・武蔵高萩駅自由通路・巾着田等】

- 巾着田は、『地域が作り上げてきた市の観光資源』であり、『多くの観光客を集め、日高市のシティプロモーションの中で大きな割合を占めている』とともに、市においても地域の核となる場所となっており、利用料により市の中では黒字化している施設であることから、『今後も市が管理・運営する』、『観光客が毎年来るように、巾着田周辺の景観は今後とも維持保全すべき』である。

この報告書で取りまとめた内容が、現在、策定を進める「公共施設等総合管理計画」や、今後の公共施設の維持管理や最適化を図る際に、活用されることを期待しています。

平成27年12月15日

日高市公共施設等の在り方の検討に関する市民ワークショップメンバー